

赤

—色が語る浮世絵の歴史

2022年3月4日|金|—3月27日|日|

Red -The History of Ukiyo-e
from the Perspective of Color

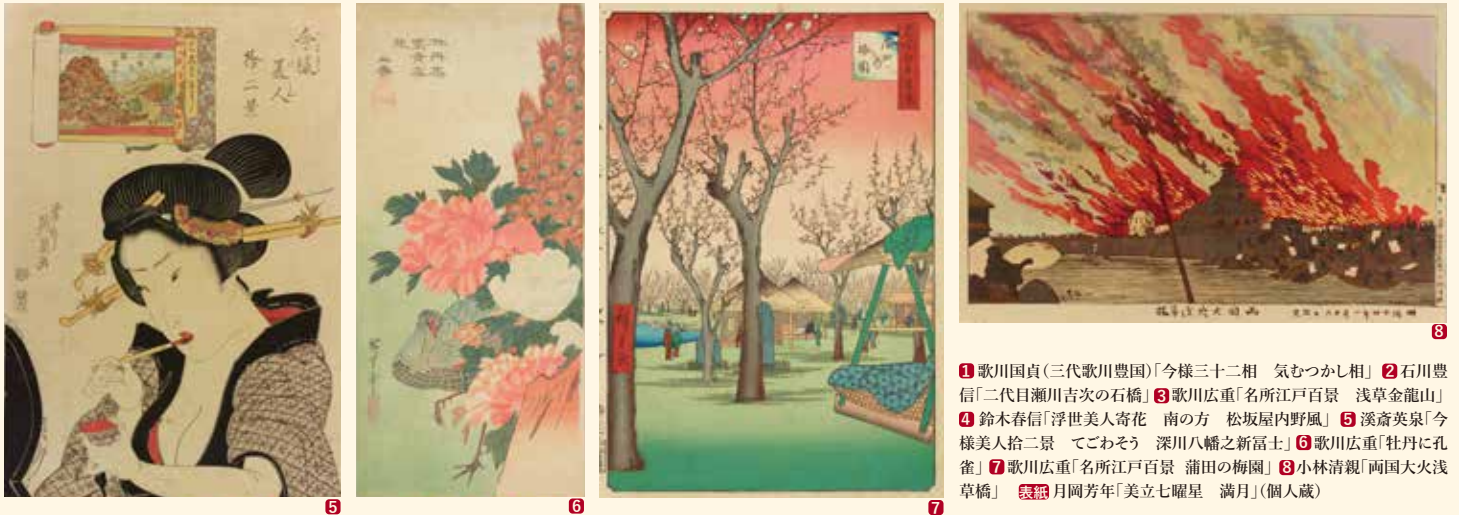


赤 一色が語る浮世絵の歴史



浮世絵には豊かな色彩があふれています。なかでも「赤」は、作品全体を華やかにしたり、画面を引き締めたりする、最も重要な色です。春信や写楽の時代では淡いものでしたが、幕末の広重や国貞の時代になると濃さを増し、芳年が活躍した明治にははどぎつくなってきました。200年以上に渡る浮世絵の歴史の中で、その色合いを少しずつ変化させているのです。さらに、「紅絵」、「紅摺絵」、「赤絵」、「紅嫌い」など、浮世絵の制作用語として最も用いられる色でもありました。赤の絵具の使われた方が、浮世絵の歴史を物語っているとと言えるでしょう。

本展覧会は、人気の浮世絵師たちによる、鮮やかな赤色が印象的な浮世絵・約60点を厳選しました。江戸・明治の人々を魅了した赤の美しさの秘密に迫ります。



① 歌川国貞(三代歌川豊国)「今様三十二相 気むつかし相」② 石川豊信「二代目瀬川吉次の石橋」③ 歌川広重「名所江戸百景 浅草金龍山」④ 鈴木春信「浮世美人寄花 南の方 松坂屋内野風」⑤ 溪斎英泉「今様美人拾二景 てごわそう 深川八幡之新富士」⑥ 歌川広重「牡丹に孔雀」⑦ 歌川広重「名所江戸百景 蒲田の梅園」⑧ 小林清親「両国大火浅草橋」 表紙 月岡芳年「美立七曜星 満月」(個人蔵)

開館時間 10:30～17:30(入館17:00まで)
 休館日 月曜日(3/21は開館)、3/22
 入館料 一般 800円 大高生 600円 中学生以下無料
 問合せ 050-5541-8600(ハローダイヤル)

太田記念美術館
 ŌTA MEMORIAL MUSEUM OF ART

アクセス 東京都渋谷区神宮前1-10-10
 JR山手線 原宿駅(表参道口)より徒歩5分
 東京メトロ千代田線・副都心線
 明治神宮前駅(5番出口)より徒歩3分

